



# 祐介の目

No.118

大田祐介（福山市議会議員）

## 緊急事態宣言

緊急事態宣言が発令されたが諸外国のロックダウンにはほど遠く、緊張感も感じられなかった。憲法上、緊急事態条項が定められていないので私権の制限ができない。岡山県知事が高速道路のパーキングで検温を実施すると言っただけでバッシングを受けた。

国会ではようやく改正国民投票法が成立し、引き続き憲法を改正して緊急事態条項を定めるかと思いきや、閉会してしまった。我が国のコロナ感染者や死者は欧米と比較して桁違いに少なく、日本人にはコロナ耐性「ファクターX」があるという説もあり、ロックダウンまで必要ないという楽観的な声もある。しかし、それは戦時中の「神国・日本いざとなったら神風が吹く」といった空気と同類に感じる。デルタ株による感染爆発が起こったインドも当初は感染対策優等生だった。人類最大の敵はウイルスであり、日本も

インドのようにならない保障は無い。早期に憲法を改正して最悪の事態に備えるのがリスクマネジメントだ。

とは言え、私もこれ以上の自粛は勘弁が本音だ。様々な自粛要

請が出されたが、最も順守していたのは飲食業界ではなかったか。特に酒類の提供禁止というのは酒造業界にとつて大打撃である。5月25日、日本酒の瀬祭が日経の一面を使って意見広告を出した。その要旨は、①このままでは飲食店がコロナ禍の最大の犠牲者に②ゼロか100ではない。感染も倒産も抑えるために意味のある制限策に見直しを③飲食店を守ることも「いのち」を守ることにつながる、であった。日本中の酒造業者が自助努力をする中、私も7月からワイナリー前で日曜朝市の開催を予定している。ぜひ山野町の新鮮な野菜や山野峡ワインを買いに来て欲しい。

現状ではワクチン接種こそ最大の経済対策であり、混乱することなく一刻も早く集団免疫を獲得したい。できれば長期間我慢を強いられてきた飲食・宿泊・観光関係者等に優先接種し、安心して営業を再開できるようにしてほしいと議会で訴えた。